

イランに選ばれた“出光丸【”647号】

2026年 5月 石館

出光興産の大型石油タンカー“出光丸”が封鎖の続くホルムズ海峡を通過した。出光丸は200万バレル（約30万トン）のサウジアラビア原油を積んでいた。何故出光丸が選ばれたのかまた果たして日本関連船舶の通過は続いて叶うのであろうか。



ホルムズ海峡を通過した「出光丸」（画像：出光興産）

ホルムズ海峡を通過した出光丸

最近のレジメ640号で出光興産の日章丸事件について書いたが、今回の出光丸の事例は日章丸事件と関係がある。

本題の題名は出光丸とあるが小生がトーマン時代一頃船舶本部長をやっていたことがある。船

のことはほとんどわからず名前だけの本部長であったが、それでも職務柄トーマンの関係した船の進水式に何回か出たことがある。

上の写真にある出光丸は積載重量約30万トンと大型のVLCC（Very Large Crude Carrier）で1953年にイランに行った日章丸1.8万トンの15倍以上の大きさである。このレジメではホルムズ海峡封鎖の問題ではなく、主としてタンカーとはどんなものかについて触れたい。VLCCの大きさは大体東京タワーを横にしたくらい大きさである。

小生は残念ながら大型タンカーの進水式に出たことはないが、日本郵船の貨物船（7万トン）の進水式では2002年に名付け親の荣誉に恵まれたことがある。進水式は造船において造船台に組み立てられた新造船舶を初めて水に触れさせる作業・儀式のことである。人間の誕生日に相当する儀式で、進水式と同時に命名式が行われるのが通例になっている。

なんだか自慢話をしているようで恐縮であるが、船に関わった人間として得難い経験をさせてもらった。何故小生のような者が名付け親になったのかは、こ

の船の持ち主は台湾系米国人で持主の娘はブッシュ政権の労働大臣をやっており、ちょっと知っていたのでひょんなことから名付け親を頼まれた。しかしこの船はトーマンとは何の関係もなかった。船を運行する日本郵船の了解も必要であったが米国時代同じ時期に駐在した徳川 18 代目の当主で郵船の副社長だった徳川氏の推薦もあり名付け親が決まった。

また進水式ではシャンパンのボトルを船体に叩きつけて洗礼する儀式が行われる。1811 年、当時のイギリスの皇太子・ジョージ 4 世が軍艦の進水式で、その役目を女性に充てるように決めたことから、西欧では女性がボトルを割る



のが慣習化、伝統として確立した。

左写真は進水式の光景

この慣習は日本でも引き継がれ、私の家内がシャンパンを割る役目を仰せつかった。進水式では私がやる命名式より、女性によるシャンパンを割る儀式が進水式のハイライトである。

大型船の進水式では地元民を招待したり、一般公開するなどイベント的な要素もある。

日本海軍の軍艦の進水式には、天皇や、皇族が臨席することもあり、盛大な式典が催された。進水式には大別して 2 種類ある。一つは船台に乗ったままドックに水を注入する“ドック進水”。もう一つは船台ごとスロープを滑走して水面に入水する“船台進水”である。船台進水の方が遥かに華やかであるが最近は大型船が多く船台進水は少なくなっている。

ではタンカー及び船全般について簡単にまとめたい。

総トン数 100 トン以上の船は世界に約 9 万隻あり、その半分はモノを運ぶ貨物船とフェリーなどの客船からなる商船である。

船は必ずどこかの国で船舶登録を行う。(人の国籍登録と同じ)。実際に保有している企業・人がいる国と、船舶登録している国は必ずしも一致しておらず、商売や節税などの理由で登録国が決まることが多い。

ちょっと古い 2018 年のデータであるが登録されている船腹量が多いのは

下記の国である。

1 位:パナマ 21,486 万総トン (16.1%)

2 位; リベリア 15.511 万総トン (11.6%)

3 位; マーシャル諸島 15.115 万総トン (11.3%)

世界の海上輸送量は 1985 年より継続的に増加しており、2018 年時点で 1985 年比 4 倍ほどに増加している。

世界で運ばれている貨物 (2018 年)

世界で船で運べる輸送量は約 120 億トン、実際に運んでいる量は 118 億トン程度で運ばれている商材は、エネルギーや資源が多い

1 位; 石油 (31 億トン 26%) 2 位: 鉄鉱石 (15 億トン 12%)

3 位; 石炭 (14 億トン 11%) 全体合計 118 億トン

船の種類・サイズ

1 位; ばら積み貨物船 (4.5 億トン、33.6%) 2 位; オイルタンカー (2.7 億トン 20.3%) 3 位; コンテナ船 (2.4 億トン 17.8%)

世界のタンカーは運送効率の観点から大型化が進み、巨大タンカー (VLCC) で全長約 330 m・幅約 60 m 載貨重量約 30 万トン、かつ世界最大級だった ULCC) は全長約 458 m・幅約 69m・載貨重量約 50 万トンである。

ただ ULCC(Ultra Large Crude Carrier) 港湾や喫水の制限があり稼働率が悪く現在ほとんど使われておらず VLCC がタンカーの主流になっておる。

主なタンカーの種類と用途

種類	主な積荷	特徴
原油タンカー	原油	VLCC など大型が多い
プロダクトタンカー	ガソリン 軽油など	タンクを細かく区分してある
ケミカルタンカー	ベンゼン メタノール	多数の独立タンク
LNG 船	液化天然ガス	超低温 (約 -160℃) で輸送
LPG 船	液化石油ガス	低温又は高圧タンクで輸送

さて主題の出光丸の話に戻るが、今から 70 年以上前の日章丸のことを覚えて

いるイランの若者世代は少ない。しかし、英国の封鎖をかいくぐってイランに向かった日章丸は、欧米と対峙するイランに好都合のストーリーだ。同じ年に起きた米英によるモサデク首相打倒のクーデターと共に、革命イランの歴史に重要な記憶として刻み込まれている。

出光は出光丸のホルムズ海峡通過について、イラン側と交渉したかどうかは“回答を控える”としている。だが出光がイランに限らず中東の産油国と地道に信頼関係を築いてきた結果であろう。